

11月18日（水）に低学年ブロックの検証授業が3年生の教室で行われました。

3年算数授業（はしたの大きさの表し方を考えよう）における学び合い！

- ◆授業者 依田 優 先生(3年生)
- ◆日時 平成27年11月18日(水)
- ◆教科等 算数
- ◆単元名 「はしたの大きさの表し方を考えよう」
- ◆目標 ・分数の加法の仕方について理解し、それらの計算ができる。
- ◆助言者 中北教育事務所指導主事 松井 渉先生



《本単元で取り組む「学び合いを深めるための手立て」》

（エ）個人の考えを持たせる工夫

- ・毎時間の学習の積み重ねを大切に、振り返りながら問題解決ができるよう、既習事項をいつでも目につくところに掲示しておく。
- ・支援が必要な児童には、テープ図や数直線など視覚的・具体的な手がかりを多く用いて理解を図る。

（ク）学習過程の工夫

- ・「自力解決」→「ペア学習」→「全体での話し合い」とつなげていく。

（ケ）見通し→まとめ・振り返りを授業の中に位置づける

- ・毎時間授業の最後に、振り返らせることにより、友だちのよい点や自己の変容に気づかせる。

《授業者より》

- 自己主張が強く、友達の話の聞けない児童もいるので、普段から豊富ルールの中でめあてを決めて取り組んでいる。班で達成できるようにしている。
- 聞く態度が育つように、ハンドサインを取り入れている。
- ペアや全体で伝え合う学習を取り入れている。
- できる限り学習感想を書かせている。
- 塾に行っている児童などは、やり方だけは先に知っていてそれで満足してしまっているところも多いので、今日は意味をしっかりと考えさせたかった。
- 児童同士で深め合うところまではいかなかった。
- 一人一人が方法を考えたのに、それを十分に認めてあげられなかったかもしれない。
- ペアでの伝え合いの様子をよく把握できなかった。
- 今日は、全体的に緊張して集中してよく取り組んでいた。

《質問》

- ・ジュースとビンの意図はあるのか→教科書の物を使用した。形が違う物をあえて使った。
- ・見通しはどのようにしたのか→どんな方法で考えればいいのかは掲示物を使用して思い出させたかったが、あまりでなかった。

《研究会より》

児童の様子

- 自力解決・ペア学習・全体と集中してよくやっていた。ペア学習もとても上達し、話し合いをしっかりとやろうと御頑張っている様子が見られた。「まず、次に…」という言い方も活用できていた。
- ヒントカードを生かして答えを出そうと頑張っていた。
 - ・集中が切れてくると話を聞かない児童も出てきて残念だった。

手立ては有効であったか

- 既習事項が掲示されていてそれを活用できていたので有効であった。
- 学習形態はよかった。前で発表させる順番も適切だった。
 - ・自力解決の時間はもう少し短くてもよいのではないか。そうすれば、ペア学習や適用問題をする時間に充てられたのではないかな。
 - ・テープ図を小数で説明した児童への対応が気になった。小数にできない分数の計算に対応できるのか。今後確認していった方がよい。
 - ・「見通す」の段階で出た、一人の児童の意見がその後に影響したようだった。先生の方から誤答を出して話し合いを盛り上げてよかった。5/20を出すタイミングを再考してもよかった。5/20を書いていた児童もいたが、ペア学習の段階で消してしまった。5/20にならない理由を確認しながら次時につなげていくとよい。
 - ・全員で共通して使える図などがあってもよかった。

目標は達成されたか

- 1/10が5つ分（単位分数で計算するということは）理解できていた。
 - ・適用問題までいけるとよかった。



その他

- 普段小さい声の児童が、本時では大きい声で発表できていてよかった。
 - ・学習内容が変わるときには、ノートのページを新しく変えるように統一した方がよい。

～指導・助言～（松井 渉指導主事より 別紙参照）

- 学力の3要素とは、知識・技能の習得（覚える学力・受動的）、思考力判断力表現力の育成、主体的に学習に取り組む態度（考える学力・能動的）、である。
- 教師からは、目標（つきたい力）を、児童は目的意識（何を学ぶか）を見通して行くことが大切。見通すためには、基礎基本の定着、学習環境作りが必要である。見通しには必然性を持たせていきたい。毎時間では大変かもしれないが、せめて単元のはじめには必然性を持たせていきたい。
- 学び合いは、他者との比較をし、相互に関わり、学力を育成できる。自分の考えを他者と比較して自分の考えを再考し自分の学びを再考していく。そのためには、コミュニケーションのある学級作りが基本となる。そこには、学習規律なども大切である。
- ペア学習の時に、無回答の場合もあり得る。それぞれの段階での、児童へのきめ細かい手立てを考えて明記していくのも大切である。評価基準をABCそれぞれの姿で具体的に表し、明記していてもよい。
- 本時では、考え方の学習内容で技能まではいっていない。指導計画と本時の目標の整合性を確認した方がよい。
- 学習課題や評価もよく考えて、しっかりと取り入れていってほしい。
- 学習感想への取り組みは大切である。わかったこと、友達のこと、気付いたこと、次の時間に考えてみたいことという視点を与えたが、3つめの視点は次時の必然性になり得るのでこの点はとても素晴らしい。

今回の3年生の授業は、低学年ブロックの研究内容に則って地道に取り組んできた成果が児童の真剣に学ぶ様子にあらわれており、児童の大きな成長に感心させられました。依田先生、ありがとうございました。（文責:武井）